

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標2_健康・福祉】

施策 2-4_高齢者福祉の充実

基本計画	事業番号	細事業名称
2-04-01	00343_01	要介護者紙おむつ支給事業
2-04-01	00345_01	住宅改修支援事業
2-04-01	00349_01	家族介護者慰労金支給事業(介護特会)
2-04-01	03071_01	緊急通報体制整備事業
2-04-01	03228_01	要介護者理美容サービス事業
2-04-01	03277_01	見守り推進員設置委託事業
2-04-02	00325_01	生活支援体制整備事業
2-04-02	00333_01	介護予防ケアマネジメント事業
2-04-02	00335_01	介護予防一般高齢者施策事業
2-04-02	00336_01	シルバーボランティア事業
2-04-02	00337_01	健康長寿地域拠点づくり事業
2-04-02	00357_01	地域リハビリテーション活動支援事業
2-04-02	00366_01	栄養改善個別指導事業
2-04-02	03338_01	生き生きデイサービス委託事業
2-04-02	03347_02	低所得者保険料軽減繰出金
2-04-02	03392_01	高齢者福祉センター整備事業
2-04-02	03444_01	指定介護予防支援事業
2-04-02	03566_01	保健事業・介護予防一体的実施事業
2-04-03	00168_01	包括的継続的ケアマネジメント支援事業
2-04-03	00340_01	高齢者の生きがいと健康づくり事業
2-04-03	00342_01	認知症総合支援事業
2-04-03	00342_02	認知症高齢者地域支え合い事業補助金
2-04-03	00348_01	成年後見制度利用支援事業
2-04-03	00356_01	在宅医療・介護連携推進事業
2-04-03	00372_01	認知症高齢者地域支え合い事業
2-04-03	03214_01	家族介護者慰労金支給事業
2-04-03	03524_01	シニアクラブ活動支援事業
2-04-03	03524_02	老人クラブ運営補助金
2-04-03	03552_01	ねんりんピック開催事業

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00343_01		
事業名(行目名称)		要介護者紙おむつ支給事業費	細事業名	要介護者紙おむつ支給事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護者3以上の者		数値	2,812人		
	手段(どうやって)	9月・3月に希望する品目(紙おむつや尿とりパッド)を現物で受給者に給付する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者に紙おむつなどを支給することにより経済的・精神的負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		8,065	9,176	11,626	10,981	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 1,799千円 ○職員手当等 300千円 ○共済費 366千円 ○旅費 51千円 ○役務費 60千円 ○委託料 11,220千円 	
財源	県・国支出金	0	5,298	6,714	6,812		
	地方債		0	0			
	その他	0	2,112	2,674	0		
	一般財源	8,065	1,766	2,238	4,169		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
対象者数		目標値	380	380	300	300	300
		実績	335	268	278	264	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
物価上昇による紙おむつの単価及び燃料費等高騰のため、委託料が昨年と比べ、約2倍となった。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
在宅サービスとして最もニーズがあり、中重度の介護を要する高齢者を支援するための重要な事業であるため、今後も継続する。また、物価上昇により委託料が増加しているため、予算を拡大する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
介護者にとって、紙おむつ支給は非常に有益であり、在宅で介護している家族を支援するための重要な事業であるため、継続して実施する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00345_01		
事業名(行目名称)		住宅改修支援事業費	細事業名	住宅改修支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	介護支援専門員が属する居宅介護支援事業者等		数値	63事業所		
	手段(どうやって)	住宅改修費に添付する理由書を作成した介護支援専門員が属する居宅介護支援事業者等に対し、1件につき2,000円の支援費を支給する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護支援専門員業務に対する支援を行うことにより、住宅改修及び利用者の円滑なサービス需給を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		48	50	50	70	○負担金補助及び交付金 50千円	
財源	県・国支出金	0	28	28	43		
	地方債		0	0			
	その他	0	13	13	0		
	一般財源	48	9	9	27		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
支援費額		目標値	60000	60000	50000	50000	60000
		実績	24000	48000	42000	70000	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
住宅改修の需要が多く支援費の請求も多くなっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
居宅介護支援等の提供を受けていない要介護等への円滑なサービス提供のため、令和4年度実績に合わせて予算は拡大する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
支援費を支給することにより、住宅改修以外の介護保険サービスの利用がなく居宅介護支援等の提供を受けていない要介護者等に対する住宅改修の円滑なサービス提供を行うことができる。このまま維持することが妥当である。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00349_01			
事業名(行目名称)		家族介護者慰労金支給事業費	細事業名	家族介護者慰労金支給事業(介護特会)				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護4以上の者		数値	1,857人			
	手段(どうやって)	在宅で、介護サービスを利用していない中重度の介護を要する高齢者の介護保険料の所得段階が1の者は、月額7,000円、所得段階が2、3の者は、月額5,000円慰労金を支給。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅で、中重度の介護を要する高齢者を介護している介護者に対し、介護手当を支給することにより、介護者の経済的・精神的負担の解消を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		0	375	375	0	○需用費 1千円 ○役務費 2千円 ○扶助費 372千円		
財源	県・国支出金	0	216	216	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	87	87	0			
	一般財源	0	72	72	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
支給月数			目標値	100	100	100	100	60
			実績	6	0	0	0	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
なし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
介護サービスを利用していない中重度の介護を要する高齢者を介護している者の経済的負担軽減や在宅介護支援のため、事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
中重度の介護を要する高齢者を在宅で介護している家族を慰労するための重要な事業であるため、今後も継続して実施する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03071_01		
事業名(行目名称)		緊急通報体制整備費	細事業名	緊急通報体制整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の独居高齢者	数値	4,306人			
	手段(どうやって)	緊急通報装置(シルバーあんしんSシリーズ)を申請者に貸与し、緊急時にはボタン1つで第1通報先(委託契約先)を経由して、第2、第3通報先の協力者(友人、親族等、申請時に登録のあった者)に連絡を行う。第1通報先は、必要があればかかりつけの病院への連絡や、救急車の出動依頼も行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	独居高齢者の事故の防止・緊急時の連絡体系の確保					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,245	1,456	1,456	1,239	○役務費 128千円 ○委託料 1,328千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,245	1,456	1,456	1,239		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
緊急通報装置設置数		目標値	300	200	200	200	200
		実績	146	124	110	98	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
施設入所等により設置件数が減少傾向にある。設置件数を増加させていくための方策が必要。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
独居高齢者の不安解消及び緊急時の連絡体制づくりを図るため、今後も事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
独居高齢者の不安解消及び緊急時の連絡体制づくりを図るため、今後も事業を継続する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03228_01			
事業名(行目名称)		要介護者理美容サービス事業費	細事業名	要介護者理美容サービス事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護3以上の者		数値	2,812人			
	手段(どうやって)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者宅へ散髪の利用券(年3枚)を送付し、理容組合に委託して訪問理美容を実施。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者に対する支援を行い、寝たきりの高齢者、介護者の経済的・精神的に安定した生活の継続を支える。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,071	1,222	1,222	1,042	○役務費 22千円 ○委託料 1,200千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	1,071	1,222	1,222	1,042			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
対象者数			目標値	250	250	250	270	250
			実績	210	262	121	254	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
なし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
在宅介護支援サービスとしてニーズが高く、中重度の介護を要する高齢者を介護している者を支援する重要な事業であるため、今後も事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
在宅介護者の負担軽減につながっており、要介護者を介護している家族を支援する重要な事業であるので、引き続き事業を継続する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03277_01		
事業名(行目名称)		見守り推進員活動費	細事業名	見守り推進員設置委託事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	概ね70歳以上の見守りを必要とする独居高齢者		数値	3,002人		
	手段(どうやって)	独居高齢者約10人に1名の見守り推進員を配置し、ふれあい協力員の協力を得て対象者を可能な限り訪問し安否確認を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	安否確認を定期的に行うことにより、独居高齢者の不測の事故、災禍の防止及び孤独感の解消を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		4,595	4,723	4,723	4,465	○委託料 4,723千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	4,595	4,723	4,723	4,465		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
見守り推進員数			目標値	280	280	280	280
			実績	281	276	276	273
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
見守り推進員のなり手不足が課題である。委託先である社会福祉協議会と対応策について協議中である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
見守り推進員が独居高齢者の安否確認を定期的に行うことにより、独居高齢者の事故防止や孤独感の解消が出来ているため、今後も事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
独居高齢者を地域で見守り、対象者が住み慣れた地域で安心して暮らすための取り組みとして必要であるため、今後も事業を継続する。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00325_01		
事業名(行目名称)		生活支援体制整備事業費	細事業名	生活支援体制整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民		数値	37924		
	手段(どうやって)	第1層(市)に1人、第2層(生活圏域)に各1人ずつコーディネーターを配置し、地域の実情把握や資源開発等に携わる。コーディネーターの協議の場として、協議体もそれぞれ設置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護予防や生活支援のための様々な資源を調整して、在宅生活を支える地域づくりを推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		16,668	12,927	12,927	12,455	○報酬 5,346千円 ○給料 3,206千円 ○職員手当等 1,477千円 ○共済費 1,935千円 ○旅費 498千円 ○需用費 65千円 ○使用料及び賃借料 400千円	
財源	県・国支出金	0	7,464	7,464	7,726		
	地方債		0	0			
	その他	0	2,975	2,975	0		
	一般財源	16,668	2,488	2,488	4,729		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	
協議体設置数			目標値	10	7	7	7
			実績	5	6	6	6
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い	
<p>令和3年度から既存の地域の会を活用して、住民が主体的に地域課題の解決に向けて協議できるよう、機会を模索している。2層協議体が立ち上がっている6校区においては、地域課題を整理し、地域の実情に応じた地域の支え合い活動が積極的に協議していけるよう、ランチ・健康長寿コーディネーターを中心に運営している。地域の主体性や課題・実情が大きく異なるため、進め方には校区差があるものの、協議の機会を重ねながら、目的意識をもって進めている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>第2層(日常生活圏域担当)を4人、1圏域は第1層(市全体を担当)コーディネーターが兼務する体制をとっている。地域の課題抽出や受け入れ差のある中で、地域の支え合いの推進を継続して啓発していく。また、地域コミュニティ課のまちづくり組織の動向を確認しながら、高齢者分野での地域課題を明確にし、地域住民が主体性をもって地域づくりに参画していけるよう、地域との繋がりの構築とサポートを継続して行っていく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		B: 事業の進め方の改善検討				
<p>地域ケアネットワーク解散後に新たなスタートラインに立って「それぞれの地域に合った協議の場」を住民と一緒に育てる方向で住民が主体的に取り組めるよう、協議の進行をサポートしたり進捗を確認したり、地域の声に福祉の視点を掛け合わせたりと、健康長寿コーディネーターの活躍がみられる。そのため、地域の民生委員や見守り推進員などから、地域包括支援センターに対する信頼も厚くなっている。また、新たなまちづくり組織である「まちづくり協議会」との交流を深め、新たな協議体を立ち上げるための糸口を探っているが、協議体の立ち上げには至っていない。今後も「まちづくり協議会」との交流や地域の実情に合わせた取り組みが必要と思われる。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	00333_01		
事業名(行目名称)		介護予防ケアマネジメント費		細事業名	介護予防ケアマネジメント事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要支援1・2、事業対象者			数値	2377		
	手段(どうやって)	地域包括支援センター職員または、居宅介護支援事業所に委託して、介護予防ケアマネジメントとして、サービス事業対象者の利用計画や継続支援、評価等を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	適切なケアマネジメントにより、生活機能の低下を防ぎ、自立した生活が続けられるよう支援する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		30,331	28,379	28,379	24,790	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 4,977千円 ○職員手当等 830千円 ○共済費 1,004千円 ○旅費 341千円 ○委託料 20,923千円 ○使用料及び賃借料 200千円 ○負担金補助及び交付金 104千円 		
財源	県・国支出金	0	11,209	11,209	10,517			
	地方債		0	0				
	その他	0	13,623	13,623	0			
	一般財源	30,331	3,547	3,547	14,273			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合 (目標値は介護保険計画予想数値より算出) (高齢者人口-要介護認定者数)÷高齢者人口			目標値	83.72	84.54	84.21	84.21	84.45
			実績	84.67	83.65	84.64	84.74	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
介護保険法に定められた必須事業。介護予防支援事業と一体的に実施するとともに、介護予防・自立支援に資するケアマネジメントとなるよう介護支援専門員の資質向上や市民への意識啓発を図りながら効果的な実施を諮る。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
高齢者が可能な限りその居宅において自立した日常生活を継続するということを実現するために、要支援認定者や基本チェックリストにより該当となった「事業対象者」に対して、訪問型サービス、通所型サービス及び介護予防ケアマネジメントを提供することにより、要支援者等の自立を支援する事業であるため継続して実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合は、一進一退ではあるが、一定の効果があると思われる。また、本事業は必須事業でもあるため、別途介護支援専門員の資質向上を図りながら、引き続き介護予防ケアマネジメントを推進する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	00335_01		
事業名(行目名称)		介護予防一般高齢者施策事業費		細事業名	介護予防一般高齢者施策事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民			数値	38089		
	手段(どうやって)	介護予防の意識啓発のため、広報誌等による周知啓発や介護予防教室等を実施。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域において、自主的な介護予防活動が実施され、高齢者が積極的にこれらの活動に参加し、また、元気な高齢者自身が支えてとなって、みんなで支えあい、介護予防に向けた取り組みを実施する地域社会を構築する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 1,736千円 ○給料 2,722千円 ○職員手当等 794千円 ○共済費 1,054千円 ○旅費 357千円 ○需用費 315千円 ○役務費 70千円 ○委託料 10,000千円 ○使用料及び賃借料 300千円 ○公課費 9千円 		
経費		14,562	17,357	17,357	14,718			
財源	県・国支出金	0	6,855	6,855	6,243			
	地方債		0	0				
	その他	0	8,333	8,333	0			
一般財源		14,562	2,169	2,169	8,475			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
介護予防教室延べ参加者数			目標値	1000	1000	800	1000	1000
			実績	777	952	896	1032	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや低い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>集団を対象とした教室の中で、参加者1人1人の心身の状態に合わせた個別的な指導実施には限界のため、心身機能が低下している参加者に対しては、教室開催の前後に訪問評価や評価会議を実施し、個別的なアセスメントや指導を行うことで介護予防の効果を高められるようにしている。委託事業のため、指導内容や教室運営の平準化を図るため、テキストやプログラム構成を見直し、スキルアップを目的として委託事業所間での見学実施などを実施。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>教室参加者の機能低下者を抽出し、教室開催の前後の訪問評価や評価会議を実施することで、在宅生活継続に向けた課題を抽出し、教室での学びがより効果的になるような指導ができる体制を確立している。自発的な介護予防に資する活動の育成・支援のため、効果的な事業展開が行えている。今後も、教室終了後に社会資源や他事業への接続や支援者との連携を図り、介護予防効果を向上できる仕組みを定着させていく。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>予定通り教室を開催することができ、教室参加者の感想は「良かった」または「やや良かった」と回答した人が100%であり、参加者の満足度は高い。介護予防の効果を高めるためには、3か月間の教室後も通いの場等に繋がり、社会との関わりを持ち続けることが重要であることから、地域住民の健康づくりと地域づくりを支えるボランティアである市民体操指導士が健康長寿地域拠点(以後拠点)の魅力を語る会を設ける、拠点参加への呼びかけを行うことで、28.8%であった教室参加者の拠点参加率が35.2%に向上した。次年度も拠点や社会参加への橋渡しを行うために、具体的に社会資源を活用するイメージが持てる機会を作っていく。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00336_01		
事業名(行目名称)		シルバーボランティア事業費	細事業名	シルバーボランティア事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の要介護・要支援認定者を除く市民		数値	29987		
	手段(どうやって)	高齢者のボランティア活動を評価したうえでポイントを付与し、当該高齢者の申し出により、ポイントを交付金等と交換する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者がボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献をするとともに、健康増進を図り介護予防につなげる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		112	450	450	102	○報償費 150千円 ○負担金補助及び交付金 300千円	
財源	県・国支出金	0	177	177	44		
	地方債		0	0			
	その他	0	217	217	0		
	一般財源	112	56	56	58		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
ポイント交換者数		目標値	0	100	50	100	100
		実績	0	40	15	71	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや低い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	統合する				
<p>R3年度からボランティア活動推進事業に事業が統合され、今年度はR2年度の活動者へのポイント換金事務を継続して実施。R2年度はコロナ禍のため、ボランティア活動の減少と申実施済みの方もいる為、ポイント交換者数は現在なし。また、地域コミュニティ課が管理しているポイント換金では15名で、今後年度末に増加すると考えられる。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>今年度を最後に、ポイント換金事務は終了。高齢者がボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献、介護予防につなげる取り組みに関しては、生活支援体制整備事業の中で今後検討。必要時地域コミュニティ課や社会福祉協議会のボランティアセンターとの連携も図り、活躍機会を検討していきたい。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		B:事業の進め方の改善検討				
<p>今年度を最後に、ポイント換金事務は終了し、ボランティア活動推進事業への移行に伴って、地域コミュニティ課が管理している65歳以上のポイント交換者数の評価となるが、令和4年度は、コロナ禍でもあったため活動実数は目標値には届いていないが、前年度より回復傾向である。ボランティア活動を推進できる状況が整い次第、活動の周知を協働して行う必要がある。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00337_01		
事業名(行目名称)		健康長寿地域拠点づくり事業費	細事業名	健康長寿地域拠点づくり事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民		数値	38030		
	手段(どうやって)	自治会館等を活用して、高齢者が主体的に通いの場を運営できるように支援する。地理的条件の悪い大島地区においては、介護予防を希望する高齢者が食事やコミュニケーション、軽い体操などの介護予防プログラムに取り組めるよう、介護予防事業所に委託して支援を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	一般高齢者の介護予防と高齢者の居場所づくり、仲間づくり、役割づくり					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		6,092	16,656	16,656	6,395	○報償費 192千円 ○旅費 109千円 ○需用費 2,925千円 ○役務費 273千円 ○委託料 11,157千円 ○負担金補助及び交付金 2,000千円	
財源	県・国支出金	0	6,579	6,579	2,713		
	地方債		0	0			
	その他	0	7,995	7,995	0		
	一般財源	6,092	2,082	2,082	3,682		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
拠点立ち上げ数(累計)		目標値	130	125	110	120	120
		実績	98	99	105	106	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
感染対策を実施しながら安心・安全に介護予防を継続していくため、県や市内の感染状況に応じて拠点運営段階を決め、感染対策を参加者に周知し遵守してもらいながら活動を行っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、新規に6拠点立ち上がっている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動休止があること、拠点参加者の高齢化していること、この2点が要因となり拠点参加人数が減少傾向にある拠点が增多している。そのため、参加者の減少が著しい拠点に関しては重点的に拠点運営支援を行った。また、拠点参加者の高齢化に伴い認知機能の低下等が気になる参加者は、委託事業者や地域の人と連携しながら適切な支援に繋がるようフォローしている。拠点参加者の増加を目指し広報等で参加者を募ると、市民の方から多くの問い合わせがあったことから、周知が効果的であることが分かった。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
引き続き参加者へ感染対策の呼びかけを行うとともに、参加者増加に向けて市民の拠点参加を募る働きかけを行う。拠点に参加することで介護予防のみならず地域での繋がりが増え、参加者同士がお互いに助け合える地域を目指して今後も継続していく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、県独自の感染警戒レベルに合わせた運営基準を定めて感染予防対策の徹底を依頼し、安心・安全に活動が行えるよう支援した。新規参加者の獲得を目指し、従来の市政だより、マイタウン、ロビー展での周知啓発に加えて、参加者募集中のポスターとチラシを作製し、市内の公共施設やドラッグストア、商業施設、金融機関、医療機関などへポスターの掲示とチラシの設置を依頼した。媒体を目にする機会が増えたことで、電話を中心とした問い合わせが増え、新規参加者の獲得につながった。3年ぶりとなる交流会を行い、活動継続に向けてのモチベーションを高める機会を持った。また、拠点存続のための集中支援が必要な拠点については、訪問等で介入した。個別に支援が必要な参加者については、介入の優先度や支援の目的を整理したことで、専門職の役割が明確となり、効果的な介入につながった。MaaS車両を活用したオンラインでの個別支援もモデル的に実施した。相互的な拠点指導技術の研鑽を目的に指導事業者間での見学機会を設置し、支援者のスキルアップを図った。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00357_01			
事業名(行目名称)		地域リハビリテーション活動支援事業費	細事業名	地域リハビリテーション活動支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上高齢者		数値	37924			
	手段(どうやって)	リハビリテーション等専門職を活用して各介護予防事業等への助言指導、訪問指導等と事業改善を行う。助言指導等は介護予防教室、健康長寿地域拠点、地域ケア会議等の利用者、関係事業者等に行い、専門職は報償費で対応。事業改善は平成30年度に評価基準の作成、令和元年度・3年度に市民体操指導士の養成、令和2年度にPPK体操のバージョンアップを、専門職団体への委託により行う。令和4年度以降は、介護予防事業等へのアセスメントと評価に関するガイドラインの作成と市民体操指導士の養成を引き続き行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	専門職の関与によりPDCAサイクルを回して、高齢者に将来に渡って(人生の最期を迎える日まで)自立支援につながる介護予防事業を提供、もって健康寿命の延伸を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		363	1,135	1,135	288	○報償費 1,080千円 ○需用費 55千円		
財源	県・国支出金	0	447	447	122			
	地方債		0	0				
	その他	0	547	547	0			
一般財源		363	141	141	166			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
市民体操指導士養成人数(累計)			目標値	20	40	40	43	43
			実績	21	21	43	43	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>昨年度延期となっていた、市民体操指導士養成講座を実施し、住民主体で介護予防を支援できる人材を養成。リハビリテーション専門職協会と協働して、市民体操指導士の養成及び委託事業者等の体操指導スキルの向上を継続して図ることができている。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>各種介護予防事業の実施に対し、リハビリ専門職等の関与を得ることで専門性の高い効果的な事業展開が期待できる事業である。継続的に専門職を起用して成果向上を目指す。令和4年度は在宅生活補助具の活用資料等を作成し、市民への周知を図る。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>昨年度延期となっていた、市民体操指導士養成講座を実施し、22名の市民体操指導士を新たに養成した。昨年度見直しを行った介護予防アセスメントと評価については、ガイドラインを作成し、愛媛県リハビリテーション専門職協会の協力の元、委託事業者や市民体操指導士に周知し、技術的支援を行った。今後もリハビリテーション専門職職を活用し、効果的な介護予防事業を展開していく。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	00366_01	
事業名(行目名称)		栄養改善個別指導事業費		細事業名	栄養改善個別指導事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上高齢者のうち要支援認定者及び事業対象者			数値	2384	
	手段(どうやって)	退院直後や外出困難等、生活に何らかの課題があり、短期集中的(3~6か月)に支援することにより生活機能の向上が見込まれ、自宅等での生活が継続可能となる者に対して介護ケアマネージメントを実施し、効果的な指導になるよう管理栄養士等専門職が個別訪問指導を実施する。サービス終了後は、地域での社会参加や一般介護予防事業につながるよう支援する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護予防・日常生活支援総合事業の介護予防・生活支援サービス事業(訪問型サービスC事業)として要支援者等の多様な生活支援のニーズに対応することを目的にサービスを充実する。 生活機能の向上が必要な高齢者が、自身の生活を見直し、改善及び自立を図り要介護状態になることを予防する。また、心身機能やセルフケア能力の向上、社会参加を促進し、自己決定に基づいた自分らしい生き生きとした生活を少しでも長く自宅等でつづけられるようにする。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,571	2,969	2,969	2,811	○報酬 1,853千円 ○職員手当等 309千円 ○共済費 377千円 ○旅費 171千円 ○需用費 50千円 ○役務費 9千円 ○使用料及び賃借料 200千円	
財源	県・国支出金	0	1,172	1,172	1,192		
	地方債		0	0			
	その他	0	1,426	1,426	0		
	一般財源	2,571	371	371	1,619		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	
利用者数			目標値	12	16	10	20
			実績	16	18	7	10
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>個別訪問指導それぞれのケースは、在宅生活が継続できており効果があると思われる。しかし、保健指導対象者が新型コロナウイルス感染症を恐れての訪問を中止・延期する場合もあり、当初の訪問予定から遅れが生じていたり、利用者数が少ないことが課題である。利用申請を行うケアマネージャーにこの事業の効果等を伝えることで利用者数の増加が期待できるため、10月末に行われる庁内外のケアマネージャーが集まる研修会で、事業効果を示したプレゼンで周知啓発し、利用者数の増加をめざす。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>外出機会の減少による、他者との交流や筋力・認知機能の低下などのリスクが高まるため、事業の周知と利用者へ効果的な指導になるよう手技・手法を改善し実施する。また、ケア会議等の他事業からの対象者抽出の可能性を広げ、ケアマネージャー等の支援者への周知啓発に努めていく。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		B:事業の進め方の改善検討			
<p>この事業の9割の利用者が身体機能を維持・向上し、介護サービス利用も減少しているため、介護費削減効果のある事業と評価できる。また、家族のケア意識が上がったり、利用者の意欲が向上したり、社会資源の活用にも幅が広がった等の影響評価(波及評価)も期待できる。しかし、コロナ禍のため、この事業の利用申請を行う外部組織ケアマネへの周知不足や利用者自身が訪問回数が多いことに抵抗を示すため、利用者数が伸びなかった。今後は、コロナの状況を鑑みながら外部組織ケアマネへの周知を積極的に行うとともに、訪問回数が少なく利用しやすい「介護予防相談事業」を新設し、既存の「短期集中訪問型サービスC事業」と並行しての実施を検討する。その場合、現在の評価指標を利用人数から利用回数に変更する必要がある。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03338_01		
事業名(行目名称)		生き生きデイサービス事業費	細事業名	生き生きデイサービス委託事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区に在住の在宅の高齢者等	数値	80人			
	手段(どうやって)	新居浜市総合福祉センター別子山分館へ通所し、食事・入浴・健康指導・趣味活動を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区に在住の在宅の高齢者等が、新居浜市総合福祉センター別子山分館への通所により、日常動作訓練・趣味活動・健康指導を通して社会的孤立感の解消・自立生活の助長・要介護状態になることの防止を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		518	979	979	775	○役務費 1千円 ○委託料 978千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	518	979	979	775		
一般財源		0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
延べ利用者数		目標値	190	190	190	190	200
		実績	120	127	106	190	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
なし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地区高齢者の交流の場となっており、介護予防及び自立生活助長のため、今後も継続して事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
別子山地区に在住の高齢者が、新居浜市総合福祉センター別子山分館への通所により、日常動作訓練・趣味活動・健康指導を通して、自立生活を助長し、要介護状態になることの防止及び高齢者の孤立感解消を図ることができるため、事業の継続が望ましい。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03347_02			
事業名(行目名称)		(施)介護保険事業特別会計繰出金	細事業名	低所得者保険料軽減繰出金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	保険料段階が第1段階～第3段階の第1号被保険者		数値	15,469人			
	手段(どうやって)	公費を投入して、第1段階から第3段階までの保険料を軽減する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護保険料を払うのが困難な低所得者の負担を軽減する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		211,195	211,965	211,965	211,781	○繰出金 211,965千円		
財源	県・国支出金	159,513	158,973	158,973	159,272			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	51,682	52,992	52,992	52,509			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
保険料軽減者数			目標値	15469	15412	15412	15489	15478
			実績	15586	15609	15609	15534	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
介護保険第1号被保険者(65歳以上)保険料について、低所得者(市町村民税非課税世帯全体)の保険料軽減を強化する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
介護保険料を払うのが困難な低所得者(市町村民税非課税世帯全体)の負担軽減が図られた。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03392_01		
事業名(行目名称)		高齢者福祉センター整備事業	細事業名	高齢者福祉センター整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内高齢者福祉センター(上部・川西・川東・大島分館)		数値	4箇所		
	手段(どうやって)	各高齢者福祉センターの経年劣化箇所等の修繕及び設備、備品の更新					
	目的(どんな状態にしたいのか)	利用施設および設備の充実。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		811	2,805	2,805	1,451	○需用費 583千円 ○備品購入費 2,222千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		1,900	1,900	800		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	811	905	905	651		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
延べ利用者数(4館合計)単位:人		目標値	100000	100000	100000	100000	100000
		実績	50211	34622	20000	59833	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
4施設とも建築されてから35年以上が経過しており、高圧受電設備、受水槽、ボイラー等の経年劣化が著しい状況で、いずれも改修工事を要する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
高齢者福祉センターは大島分館を含めた4館とも建築されて35年以上が経過しており、今後も施設本体、設備及び設置器具についても経年劣化が進み、継続的に修繕工事や設備更新が必要になる。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
高齢者福祉センターにおいて令和4年度も修繕工事、設備更新を実施しているが、市内4か所の高齢者福祉センターは設置後35年以上が経過しており、今後も経年劣化等による施設修繕及び設備更新が随時必要であり、この傾向は縮小することはないため、今後も計画に沿って事業を進めていく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03444_01		
事業名(行目名称)		指定介護予防支援事業費	細事業名	指定介護予防支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要支援1・2	数値	2014			
	手段(どうやって)	軽度者が適切な介護予防サービスを受けられるように、事前アセスメント、介護予防ケアプラン作成、事後アセスメントなどの介護予防ケアマネジメントを行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	軽度者(要支援1・2)に自立支援に向けた適切な介護予防サービスを提供することで、心身の状態の維持・改善を図り、住み慣れた地域・家庭で自立した日常生活を継続できるようになり、生きがいや自己実現欲求の創出など、高齢者の生活の質の向上が図られる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)		令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		67,273	68,948	68,948	67,850		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	66,722	67,050	67,050	67,850		
	一般財源	551	1,898	1,898	0		
<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 15,039千円 ○職員手当等 2,507千円 ○共済費 3,033千円 ○旅費 1,176千円 ○需用費 509千円 ○役務費 120千円 ○委託料 45,820千円 ○使用料及び賃借料 600千円 ○負担金補助及び交付金 144千円 							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合 (目標値は介護保険計画予想数値より算出) (高齢者人口-要介護認定者数)/高齢者人口		目標値	83.72	84.54	84.21	84.21	84.45
		実績	84.67	83.65	84.64	84.74	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>介護保険法に定められた必須事業。介護予防ケアマネジメント事業と一体的に実施するとともに、介護予防・自立支援に資するケアマネジメントとなるよう介護支援専門員の資質向上や市民への意識啓発を図りながら効果的な実施を諮る。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>高齢者が可能な限りその居宅において自立した日常生活を継続するというを実現するために、要支援1又は要支援2の認定者に対し要介護状態へ移行することを予防する観点から包括支援センターが行わなければならない事業であるため継続して実施する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合は、一進一退ではあるが、一定の効果があると思われる。また、本事業は介護予防ケアマネジメントと併せて、要支援者のケアマネジメントを行うもので、必須事業でもあるため、別途介護支援専門員の資質向上を図りながら、引き続き事業を継続する。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03566_01		
事業名(行目名称)		保健事業・介護予防一体的実施事業費	細事業名	保健事業・介護予防一体的実施事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	75歳以上の市民		数値	19840		
	手段(どうやって)	高齢者の保健事業の実施主体である後期高齢者広域連合から業務委託を受けて、市が高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施する。KDBシステムを活用した健康データの分析、事業の企画調整と、それに基づく個別の保健指導及び通いの場等での健康相談、健康講座等を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者の疾病予防と心身機能の向上を一体的に実施することで介護予防の推進を強化し、健康寿命を延伸する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,152	2,886	2,886	1,056	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 1,756千円 ○職員手当等 191千円 ○共済費 340千円 ○旅費 202千円 ○需用費 280千円 ○役務費 17千円 ○使用料及び賃借料 100千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	568	2,754	2,754	979		
	一般財源	584	132	132	77		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
健康長寿地域拠点訪問箇所数		目標値	0	24	25	50	75
		実績	0	24	18	60	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>事業に従事する専門職の確保ができず、地域包括支援センターで介護予防業務に従事している会計年度任用職員の管理栄養士を、7月より週4日勤務から週5日勤務に変更し、増やした週1日分を本事業に充てることで対応している。高齢者の通いの場である健康長寿地域拠点で健康相談、健康講座等で行うこととしているが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、8月～9月中旬まで拠点でのフレイル予防の健康講座を延期したため予定したように事業が進められていない。今後も、事業の進捗は新型コロナウイルス感染症の拡大状況に影響を受けると思われるが、中止せず時期をみながら実施する予定。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>事業に専従する専門職の確保を目指す。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	B:事業の進め方の改善検討				
<p>「高齢者の保健事業と介護予防との一体的実施事業」に従事する専門職の確保ができなかったため、「個別的支援(ポピュレーションアプローチ)は国保課」で「拠点等への積極的な関与等(ポピュレーションアプローチ)は地域包括支援センター」で既存のマンパワーを工夫して実施した。コロナ禍によりやむなく活動が休止となった拠点もあったが、実施できる間は積極的に実施した。来年度は、医療保険(国保・後期)と介護保険の保健事業がそれぞれ接続できるよう体制整備を図る。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00168_01			
事業名(行目名称)		包括的継続的ケアマネジメント支援事業費	細事業名	包括的継続的ケアマネジメント支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内の介護支援専門員		数値	300			
	手段(どうやって)	介護支援専門員の資質向上のための各種研修会の開催、ケアプラン作成に係る技術的指導及び助言。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	居宅介護支援事業者や介護サービス事業者、介護支援専門員などとの多職種協働や、その他地域の関係機関との連携を通じて、ケアマネジメント支援を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		372	647	647	319	<ul style="list-style-type: none"> ○報償費 496千円 ○旅費 69千円 ○需用費 58千円 ○負担金補助及び交付金 24千円 		
財源	県・国支出金	0	373	373	198			
	地方債		0	0				
	その他	0	150	150	0			
	一般財源	372	124	124	121			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
地域ケア会議検討事例数			目標値	36	0	18	36	36
			実績	29	36	18	42	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する					
<p>幅広く地域課題を抽出するための地域ケア会議の検討事例数は、計画通り抽出できているが、内容が適した事例かということに関しては、疑問が残った。また、介護支援専門員連絡協議会で圏域別に研修会等開催しているが、課題解決に向けた内容であるかなど、内容を検討しながら行っていく必要がある。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>介護支援専門員の資質向上と共に地域課題を抽出できるなど、介護予防・自立支援を実現するためには必要な事業であり、継続していく必要がある。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>新型コロナウイルス感染症拡大により会議の開催が心配されたが、書面開催を実施することで、計画通り行うことができた。また、地域ケア会議を実施することで介護支援専門員の資質向上と共に地域課題を抽出できるほか、多職種で協議することでネットワークが強化され、日々のケアマネジメントにおいて相談し合える関係ができつつある。介護予防・自立支援を実現するための介護予防ケアマネジメントとなるよう、本事業を継続していく必要がある。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00340_01		
事業名(行目名称)		高齢者の生きがいと健康づくり事業費	細事業名	高齢者の生きがいと健康づくり事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	活動的な状態にある高齢者を含む全ての高齢者		数値	38,089人		
	手段(どうやって)	高齢者を代表する組織である老人クラブに生きがいと健康づくり事業を委託する。 主な事業内容としては、(1)健康文化活動 (2)軽スポーツ活動 (3)公共施設の美化活動 (4)交通安全活動 (5)支え合いサロン活動 (6)栄養改善活動 など					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者が地域社会の各分野で、豊かな経験や知識、技能等を活かし、健康でかつ生きがいをもって社会活動ができるよう支援することで、元気高齢者づくりを促進させ、高齢者全般の介護予防に寄与し、ひいては本市の課題でもある健康長寿を延伸させることを目的とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 3,700千円	
経費		3,700	3,700	3,700	3,700		
財源	県・国支出金	0	1,461	1,461	1,570		
	地方債		0	0			
	その他	0	1,777	1,777	0		
	一般財源	3,700	462	462	2,130		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
事業参加者数 (年間延人数合計 単位:人)		目標値	50000	50000	50000	50000	50000
		実績	59881	48343	30000	38132	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>高齢者の生きがいと健康づくりや社会参加を促進し、高齢者の介護予防に資することを目的としており、老人クラブ会員自らが主体的に周囲の高齢者に対しても働きかけながら、様々な活動を推進していく必要があるが、どうしても多くの高齢者が参加しやすい健康文化活動、軽スポーツ活動、公共施設の美化活動の比率が高くなっており、介護予防等の観点から進めていく必要がある支え合いサロン活動等の活動が少なくなっている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>老人クラブ会員が老人クラブの活動を基盤としながら、地域社会の各分野で、豊かな経験や知識、技術等を活かし、健康でかつ生きがいをもって社会活動ができるよう支援することで、元気高齢者づくりを促進させ、高齢者の健康寿命の延伸につながっている。次年度も健康長寿社会の実現に向けて、高齢者の生きがいと健康づくりを積極的に推進するため、事業を継続する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>本事業が展開されたことで、高齢者の健康寿命の延伸に寄与することができている。今後も市の推進課題でもある健康長寿社会の実現に向けて、介護予防活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを行政が積極的に促進していく必要がある。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00342_01			
事業名(行目名称)		認知症総合支援事業費	細事業名	認知症総合支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数		数値	37,924人			
	手段(どうやって)	認知症に関する相談、支援 認知症に関する正しい知識の啓発(認知症サポーター養成講座他) 認知症見守りネットワークの構築及び地域での認知症見守りネットワーク活動支援 認知症初期集中支援チームの設置 認知症地域支援推進員の配置						
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		860	2,661	2,661	1,082	認知症初期集中支援事業 614千円 認知症地域支援・ケア向上事業 2047千円		
財源	県・国支出金	0	1,536	1,536	672			
	地方債		0	0				
	その他	0	613	613	0			
	一般財源	860	512	512	410			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
SOS協力機関数+地域SOS登録者数(各数値)			目標値	-	1340	1355	1370	1400
			実績	1292	1346	1358	1358	-
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>認知症になっても住み慣れた地域で尊厳を保ちながら穏やかに生活できるよう、認知症への正しい理解のための普及啓発、認知症高齢者の見守り・探索。保護などのネットワークづくり、認知症について相談があった早期に専門職が支援できる体制づくりを実施している。 今年度は普及啓発として、VR体験会を予定しており、参加者が認知症当事者の視点を体験し、認知症の人を取り巻く環境をどのように変えることが状況改善につながるか、考えられる機会とする。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>今後も引き続き、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指し、認知症への正しい理解のための普及啓発及び、相談があった時に早期に支援ができる体制づくりに努めていく。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>認知症VR体験会を実施することで、市民が認知症の症状等を実感することができ、認知症について考える機会を持つことができた。今後も認知症にやさしいまちづくり・共生社会を目指し、より多くの市民が理解を深め自分にできることを考えていける機会を確保していく。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00342_02			
事業名(行目名称)		認知症総合支援事業費	細事業名	認知症高齢者地域支え合い事業補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	角野、泉川校区高齢者数		数値	7,774人			
	手段(どうやって)	認知症についての正しい知識を普及啓発し、市民が認知症になっても見守ることができる地域になる。認知症による行方不明発生時の早期発見につながる支援活動や認知症のかぞく介護負担を軽減する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で尊厳を保ちながら、生活を継続することができる。また地域の見守り、支援活動による地域づくりにつながる。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		471	496	496	489	すみのSOS見守りネットワーク協議会補助金 255千円 泉川SOS見守りネットワーク協議会補助金 241千円 使用用途:住民へ配布するパンフレット等の印刷費、活動に必要な消耗品・備品購入費等		
財源	県・国支出金	0	285	285	303			
	地方債		0	0				
	その他	0	116	116	0			
	一般財源	471	95	95	186			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
いサポーター(角野)、あいサポーター(泉川)登			目標値	1070	1170	1185	1200	1230
			実績	1119	1172	1184	1184	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>新型コロナウイルスの影響により、活動がしにくい状況が続いていたが、角野では、ふれあい劇団の活動、認知症カフェの開催、泉川では、認知症かるたの作成等の認知症についての普及啓発活動が、徐々に活動が再開している。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>認知症への理解を深め、正しい知識を持ち適切な対応ができる住民が増え、住民主体での見守り体制が構築できるよう活動支援を行っていく。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>住民が主体となり認知症に関する知識の普及、徘徊による行方不明発生時に早期に発見できるネットワークの構築、家族の介護負担軽減のための支援活動を実施した。角野校区では、認知症高齢者家族の集いの場であるふれあいサロン、話と寸劇による認知症の勉強会、ふれあい劇団の公演活動等の取り組みを実施している。泉川校区では、認知症の理解を深めるため講演会の実施、また認知症を楽しく正しく理解してもらうための「あいサボかるた」が完成した。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00348_01			
事業名(行目名称)		成年後見制度利用支援事業費	細事業名	成年後見制度利用支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	成年後見開始の審判申立を行うべき者がいない認知症高齢者等		数値	10人			
	手段(どうやって)	認知症等により判断能力が十分でない高齢者が成年後見制度を利用するにあたり、申立を行うべき配偶者等の4親等以内の親族がない場合、市長が成年後見開始の審判申立を行うとともに、費用について助成を受けなければ成年後見制度の利用が困難と認められる者について助成を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	成年後見制度の利用を支援することにより認知症高齢者等の権利を擁護する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,030	1,661	1,661	1,834	○報償費 648千円 ○役務費 301千円 ○委託料 712千円		
財源	県・国支出金	0	958	958	1,137			
	地方債		0	0				
	その他	0	384	384	0			
一般財源		1,030	319	319	697			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
市長申立てによる成年後見制度利用者数(人)			目標値	4	4	10	10	10
			実績	10	14	8	15	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>認知症高齢者の増加により、成年後見制度利用促進についての市町の主体的関与が必要となっている。関係機関等からの成年後見人の選任についての相談が増えており、成年後見等の申立件数も増えている。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>平成28年度に成年後見制度の利用促進に関する法律が制定され、行政による積極的な制度の推進が不可欠となっており、今後も市長申立てによる成年後見制度利用者は増加することが予想されるため、計画に沿って事業を進めていく。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
<p>超高齢社会が進行している状況下において、今後も判断能力が全くない若しくは十分でない認知症高齢者の増加は避けられない。令和4年度も市長申立ての必要があった案件15件について、家庭裁判所の審判を得ることができた。平成28年度に成年後見制度の利用促進に関する法律も制定され、行政による積極的な制度の推進が不可欠となっており、今後も市長申立てによる成年後見制度利用者は相談案件も含めて増加することが予想されるため、計画に沿って事業を進めていく。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00356_01			
事業名(行目名称)		在宅医療・介護連携推進事業費	細事業名	在宅医療・介護連携推進事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数		数値	37,924人			
	手段(どうやって)	地域の医療・介護サービス資源の把握 切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進 在宅医療・介護連携に関する相談支援 地域住民への普及啓発		在宅医療・介護連携の課題抽出と対応協議 医療・介護関係者の情報共有の支援 医療・介護関係者の研修 二次医療圏内の市町連携				
	目的(どんな状態にしたいのか)	医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく最期まで続けることができるよう、在宅医療関係者と介護関係者の連携推進を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		2,504	3,012	3,012	2,376	○報償費 100千円 ○旅費 55千円 ○需用費 431千円 ○役務費 494千円 ○委託料 1,932千円		
財源	県・国支出金	0	1,738	1,738	1,473			
	地方債		0	0				
	その他	0	695	695	0			
	一般財源	2,504	579	579	903			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
、部会、多職種連携で行う研修会および市民向			目標値	14	4	3	5	5
			実績	3	3	2	5	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>今年度は、在宅医療・介護関係者間のスムーズな連携とを旨とし、多職種の在宅における役割や連携に際し、多職種間で共有しておくべき内容をまとめた情報共有冊子の作成に向け多職種の参加する部会にて協議中。今後も冊子の内容がより充実したものとなるよう協議を進める必要がある。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>今後も在宅医療・介護連携における課題解決のため、課題の把握、協議会・部会での協議、医師会との連携、研修会の開催、市民向けイベントでの広報などを積極的に行う必要がある。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>今年度は、作業部会を4回、協議会を1回実施した。作業部会では、多職種の在宅における役割や連携についての情報共有冊子の作成のために各職種の内容を協議し、来年度に情報共有冊子を完成させていく。新型コロナウイルスの影響で、住友別子病院と共催の市民向けイベントは今年度も中止。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00372_01		
事業名(行目名称)		認知症高齢者地域支え合い事業費	細事業名	認知症高齢者地域支え合い事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数		数値	37,924円		
	手段(どうやって)	認知症サポーター養成講座による認知症に関する正しい知識の普及 認知症の人やその家族が集い、地域社会からの孤立を防ぎ、地域の人や専門家と相互に情報共有できる場であるオレンジカフェの周知、カフェ同士の交流会の実施等の後方支援を実施					
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		938	1,413	1,413	927	認知症サポーター養成講座 1023千円 家族介護支援事業(オレンジカフェ) 390千円	
財源	県・国支出金	0	816	816	575		
	地方債		0	0			
	その他	0	325	325	0		
一般財源		938	272	272	352		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
認知症サポーター数(累計)		目標値	-	19100	20000	20900	23300
		実績	17530	19354	20060	21581	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
認知症サポーター養成講座は教育機関への周知を強化することで、講座申込校が年々増加している一方、企業等や住民グループを対象とした講座は回数が減ってきているため、周知を強化し、より広く認知症に関する正しい知識の普及に努める必要がある。 オレンジカフェは新型コロナウイルスの影響により、中止しているカフェが多かったが、徐々に再開し、認知症の人やその家族の居場所の確保ができています。広報や、お世話人同士の交流の機会を持つことで、カフェの運営が継続できるよう後方支援を継続する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
今後も認知症の正しい知識の普及のため、認知症サポーター養成講座を継続する。 認知症の人やその家族を地域で支え、チームオレンジのR7年度設置に向け、認知症の人等の困り事の把握、認知症の人等を地域で支える人的資源の発掘等、チームオレンジの土台作りにも努める必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
年間通して認知症サポーター養成講座を実施し、受講者に認知症についての正しい理解や対応方法を促すことができた。教育機関へ講座実施の周知を強化したことで令和2年度から開催校は増加傾向にあり、開催総数も昨年度と比べ増加している。今後は、高齢者に関連する企業等へも認知症サポーター養成講座の周知を強化し、認知症への正しい理解・対応方法を広めていく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03214_01			
事業名(行目名称)		家族介護者慰労金支給事業費	細事業名	家族介護者慰労金支給事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護4以上の者		数値	1,857人			
	手段(どうやって)	在宅で中重度の介護を要する高齢者の介護保険料の所得段階が1の者は、月額7,000円、所得段階が2、3の者は、月額5,000円慰労金を支給。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅で、中重度の介護を要する高齢者を介護している介護者に対し、介護手当を支給することにより、介護者の経済的・精神的負担の解消を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		5,645	6,084	6,084	6,120	○役務費 34千円 ○扶助費 6,704千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	5,645	6,084	6,084	6,120			
一般財源		0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
支給月数			目標値	800	800	950	950	1000
			実績	954	917	494	990	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
なし								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
支給月数増加傾向により、予算要求は増額。中重度の介護を要する高齢者を介護している者の経済的負担軽減や在宅介護支援のため、継続して事業を実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
要介護者を在宅で介護している家族を慰労するための重要な事業であり、高齢者福祉の向上に役立っていることから、今後も事業を継続する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03524_01			
事業名(行目名称)		(施)老人クラブ育成費	細事業名	シニアクラブ活動支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の老人クラブ会員		数値	5,159人			
	手段(どうやって)	老人クラブ主催で新居浜市健康都市づくりノルディックウォーキング大会を開催する。また、平成27年10月に結成された「生きいきシニア合唱団」活動の推進を図る。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	超高齢社会において高齢者が健康的な生活を維持するために非常に効果的と思われる新たな大会等への取り組みにより、外出しない傾向が強くなり、運動機能低下も懸念される高齢者の参加を促進し、高齢者からの発信による健康長寿社会への機運を盛り上げる。また、老人クラブ会員の役割と活動の場が確立できることで組織活性化につながり、ひいては将来的には近年減少傾向に加入クラブ数及び会員数の増加を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 368千円		
経費		368	368	368	368			
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	368	368	368	368			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
ウォーキング大会参加者数及び合唱団参加延人数(人)			目標値	800	800	800	800	800
			実績	274	209	100	176	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>ノルディックウォーキング大会については11月11日の開催に向けての準備を行っている。介護予防の観点からも非常に高齢者に適したスポーツであり、多くの方に参加いただけるように検討していく必要がある。生きいきシニア合唱団活動については、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度はあまり活動ができていない。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>他の地域にはない2つの事業を展開することで、高齢者発信による健康長寿社会実現への意識高揚が図られており、健康長寿の延伸につなげるためにも、次年度についても今年度と同様の予算規模を確保し、健康維持・介護予防に非常に効果的な市政懇談会からの提言事業であるこの2つの事業への支援は継続実施する。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
<p>超高齢社会が加速度的に進行している現在、仲間づくりを通じて、生きがいと健康づくりを推進している高齢者の自主的な組織である老人クラブの役割はますます重要なものとなっている。令和4年度については新型コロナウイルス感染症の影響で生きいきシニア合唱団活動が十分にできなかったが、ノルディック・ウォーキング大会への取組みでは多くの参加者を集めることができた。高齢者発信による健康長寿社会実現への意識高揚が図られており、市の課題である健康寿命の延伸につなげるためにも、健康維持・介護予防に非常に効果的な市政懇談会からの提言事業であるこの2つの事業への支援は継続して実施する必要がある。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03524_02			
事業名(行目名称)		(施)老人クラブ育成費	細事業名	老人クラブ運営補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の老人クラブ会員		数値	5,159人			
	手段(どうやって)	新居浜市老人クラブ連合会および単位老人クラブへ運営補助金を支給する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市老人クラブ連合会及び単位老人クラブ運営を安定させ、活動を活性化させることを目的とする。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,764	1,862	1,862	1,484	○負担金補助及び交付金 1,862千円		
財源	県・国支出金	1,175	1,241	1,241	988			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	589	621	621	496			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
職率(老人クラブ会員数/65歳以上の高齢者人			目標値	16.5	16.5	15	15	15
			実績	13.6	13.5	10.4	10.6	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>老人クラブ会員数の減少傾向、組織率の低下について大きな課題となっている。新居浜市老人クラブ連合会では会員増強の方策として女性部、若手部が中心となって地域に密着した活動に取り組み、今後はさらに地域支援活動の担い手としての介護予防活動等に積極的に取り組んでいく必要があると考えている。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>超高齢社会により、高齢者を主体とする介護予防と相互の生活支援という観点から、老人クラブの活動及び役割の重要度は日々増しており、本市が推進している健康長寿社会の実現を目指すために、次年度についても国・県とともにその取り組みと組織の活性化について継続して支援していく。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>令和4年度についても住み慣れた地域で感じられる老人クラブ活動の充実、単位老人クラブ活動の活性化を図ることができ、若手高齢者の活力が発揮できる場への土台作りを進めることができた。超高齢化社会が既に到来している現在、介護予防活動の担い手として、高齢者の生きがいと健康づくりを推進している老人クラブの役割の重要度は増しており、本市が推進している健康長寿社会の実現を目指すために、国・県とともにその取組みと組織の活性化について継続して支援していく。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03552_01		
事業名(行目名称)		ねんりんピック開催事業費	細事業名	ねんりんピック開催事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	ねんりんピック愛媛大会での新居浜市開催種目数		数値	3		
	手段(どうやって)	新居浜市においても、交流大会を開催することになり、サッカー、軟式野球及びバウンドテニスの3競技を実施予定である。令和2年度は交流大会実施要綱を策定し、実行委員会の設立準備が必要となり、令和3年度にはリハーサル大会の開催が予定されている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、高齢者を中心に健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与することを目的に毎年度開催されており、令和4年度には愛媛県において第35回大会が行われることとなった。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 5,900千円	
経費		0	5,900	5,900			
財源	県・国支出金	0	3,700	3,700	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0			
	一般財源	0	2,200	2,200			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
0		目標値	0	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和3年度に開催予定であったねんりんピック岐阜大会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、視察が中止となった。令和5年度開催予定のねんりんピック愛媛大会は予定通り開催されることから、今後、本大会開催に向けて準備が必要となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
令和5年度のねんりんピック愛媛大会開催に向けて、今後、準備を進めて行く必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和5年度の本大会成功に向けて、新居浜市実行委員会を設立し、各関係団体と連携しながら、ふれあいスポーツ交流大会(サッカー、軟式野球、バウンドテニス)及び関連イベント(健康づくり教室、おもてなしイベント)の準備を順調にすすめることができています。							